

2014年度はこんな事業を実施しました

福井芸術・文化フォーラム
主催事業



みんなで舞台に立とう!!

シーズン9 舞台発表
2014年 4月6日(日) 福井市文化会館(ホール)
主催:「みんなで舞台に立とう!!」をひろげる会/
NPO法人福井芸術・文化フォーラム
福井県内の特別支援学校・学級に通う児童生徒・卒業生らによる舞台発表。ダンス、太鼓、音楽劇のほか、今回は司会にも挑戦しました。

東京デスロック「CEREMONY」

2014年 7月26日(土) 27日(日) 福井市文化会館(ホール舞台上)
主催:東京デスロック 一般社団法人unlock/
NPO法人福井芸術・文化フォーラム

音を素材に作品をつくるワークショップ

2014年8月17日(日) 福井市文化会館(ホール)



うたごえ喫茶 2014

～思い出の歌・心の歌～
2014年8月26日(火) 福井市文化会館(ホール舞台上)

歌唱リーダー進行のもと、歌謡曲や童謡を歌う参加型コンサート。終演後すぐに「次はいつ開催するのか、次も必ず参加する!」と何人もの方から声をかけていただきました。楽しみにしてくださるお客様の笑顔が次の企画への活力です。

まちげき 2014

2014年 9月20日(土) ~23日(火・祝) 福井市内外各地域



劇団青年座

「ブンナよ、木からおりてこい」

2014年10月9日(木) 福井市文化会館(ホール)
主催:子どもいきいきプロジェクト/特定非営利活動法人福井子どもNPOセンター/NPO法人福井芸術・文化フォーラム
それぞれの団体の持ち味を活かした協働体制で実施しました。ロビーには、蛙のブンナにちなんだお弁当・パンの販売や駄菓子屋さんが出現! 楽しい雰囲気につつまれました。



Arts in Education

～日本の音～

2014年10月～12月

福井市内の19の小学校の子どもたちに筆・尺八の体験と鑑賞の機会を提供しました。

【委託事業】福井市幼児演劇鑑賞教室

劇団角笛「角笛シルエット劇場」

2014年10月29日(水) 30日(木) 福井市文化会館(ホール)

【委託事業】福井市中学校音楽教室

福井県音楽特別委員会による体験と鑑賞

2014年11月10日(月) ~12日(水) 福井音楽堂

フォーラムでは福井市からの委託を受け幼児・中学生を対象に演劇鑑賞教室を開催しています。市の事業見直しもあり実施条件が年々厳しくなっていますが、引き続きすべての子どもたちに舞台芸術鑑賞の機会を提供できるよう取り組んでいきたいと考えています。

演劇ラボ「私の演劇/私たちの演劇」

2015年 1月23日(金) 24日(土) 福井市文化会館(会議室・ホール)

第13回 芸文いこさ寄席

2015年 3月7日(土) 福井市文化会館(ホール)
フォーラムの名物企画。手づくりのロビー展示も見どころのひとつです。

ジュニアが奏でるスタインウェイ

ブルグミュラー 25 リレー演奏会—
2015年 3月22日(土) 福井市文化会館(ホール)
福井に住む6歳から14歳までのリトルピアニスト30名によるリレー演奏会。福井出身のアーティストとの共演もありました。

編集後記

- 集客にずっとものが続いている。システムを変えていく方がきつとあるはず。(K・M)
- 別れと出会いが交錯するこの時期。一つ一つを自分の糧にしていきたい。そして芸文も、皆様にとっての素敵な出会いの場にしていきたい。(M・U)

連載「舞台の裏から」はお休みします。

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています(2014年度法人賛助会員)

北陸労働金庫
公益財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバービューアケボノ
エースイン福井



2015年3月31日発行 通巻42号

福井の文化をきり拓く Fukui Art Culture Forum

Fukui+art FUKKart

「FUKKart(ふっか〜と)」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

ふっか〜と
2015.3

Vol.42

地域とアーティストとの共同制作舞台

5月上演決定!

vol.2

福井芸術・文化フォーラムでは、地域に暮らす人々やさまざまなアーティストが集い、交わり、表現を育むプラットフォーム(場・基盤)となることを目指して、舞台作品づくりに取り組んでいます。福井に暮らす方々が出演したりスタッフとして参加する市民参画型の演劇作品づくり。活動を通して、表現することを楽しみ芸術文化や地域への関心をもつ人を増やすこと、また、参加者どうしが互いに交流することにより地域社会を元気にしていくことを目指しています。

最初の活動は2013年。演出家・相模友士郎氏と福井に暮らす17名の市民が、約半年間、200時間に及ぶ稽古期間をかけて作品づくりに取り組みました。

演劇ラボ「私の演劇/私たちの演劇」を開催

2回目となる今回は、演出家・多田淳之介氏を迎え、福井に暮らす人々とともに演劇作品をつくります。新たに参加者を公募し、1月には多田さんを講師にワークショップ「演劇ラボ『私の演劇/私たちの演劇』」を開催しました。演劇ラボには、演劇未経験の方も含む20~80歳代の15名が参加。演劇って何だろう?演劇には何かできる?私たちに必要な演劇とは?…考え、話し合い、やってみて、また話し合う、そんな2日間でした。

主婦×演劇

今回の企画、実は福井に暮らすある主婦の声が発端です。福井で主婦をテーマにした作品を作りたい、子育てもひと段落、時間もできたけど何か物足りない、おけだむにはまだ早すぎる、そんな思いを演劇にぶつきたいというお話があり、この企画がスタートしました。5月の上演には、演劇ラボの参加者有志ほかが出演予定。地域に暮らす一般の市民の方個人の声や心の叫びを出発点に、観る人が生きることや福井の街に暮らすことをじっくりと考えられるような作品を目指します。この作品は、いま福井の人に届けたい演劇の姿です。本格的な稽古がいよいよこの4月から始まりです。今回の新しい取り組みに、どうぞご期待ください。



©Mieli PHOTO DESIGN
地域とアーティストとの共同制作舞台 Vol.1「それはかつてあった」(2013年) 演出:相模友士郎



まずはお互いの演劇観を共有。



2日目はホール舞台上で身体を動かします。



グループワーク。私だけが知っている福井のおすすめの場所のCMを作ってみました。

総合演出

多田さんに聞いてみました!



多田さんは福井生まれと伺いました。

そうですね。育った場所ではないのですが、両親共に福井出身、里帰り出産だったので福井病院で生まれました。子どもの頃も盆と正月には毎年父方の実家の美山に帰り、お年玉をもらって当時のたるまや西武で買い物するのが楽しかったです。現在は埼玉県に住んでいますが、一年の半分は他の地域に滞在して公演やワークショップ、その地域に暮らす「市民」と呼ばれる人たちと作品を作っています。

1年のうち半分も。地道な活動ですね。

日本人は人生で演劇に触れる機会が少なく、そのせいでコミュニケーションについて悩んだり孤独になっていると、結構本気で思っています。演劇を作る過程には様々なことがありますが、他人と協働しないと作れません。人間を演じるわけですから、人間はどんな生き物かを考えないとできません。みなさん、音楽を聴いたりライブに出かけたりしますよね。演劇も同じです。音楽や美術のように、演劇も観たりやったりするもので、少しでもそういう機会を作れたらと思って活動しています。

地域に暮らす人々と作る舞台の魅力は何でしょうか?

俳優は演じるプロ、市民は市民であることのプロ、人が生きることを伝えるには、本当にそこで生きている人が舞台上上がった方が作品として強くなります。そもそも演劇はそういうところから始まり、技術が生まれて芸術になったわけです。その原点の強さを持つ市民劇は、決してプロの劣化版ではありません。

1月の演劇ラボの手応えは。

福井の人たちが自分たちのことをどう考えているかに触れられたのが良かったですね。自分たちへの発見もあったんじゃないでしょうか。4月からの作品作りでも自分たちのことを考え、そして観客にとっても自分たちのことを考え発見してもらえそうな作品にしたいです。演劇とはそういうものだと思います。

ありがとうございました。

多田淳之介 TADA Junnosuke

1976年、福井市生まれ。演出家、東京デスロック主宰。埼玉県富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督。俳優、観客、時間を含めたその場での現象にフォーカスし、近年は客席と舞台の区分をなくして、観客の当事者性を取り入れた作品を発表している。

発行・お問い合わせ



NPO法人
福井芸術・文化フォーラム
〒910-0019 福井市春山2-7-1 福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905 FAX 0776-23-7905 開所時間 月~金 10:00~18:00/土日祝休
E-mail geibun@geibun.info ©公演・催し物の最新情報はwebでチェック http://geibun.info/
■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望など、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。

音楽を素材に 作品をつくるワークショップ

2014年8月17日(日)
会場：福井市文化会館
講師：マイケル・スペンサー (エドゥケーター・ファシリテーター・ヴァイオリニスト)
参加者：18名



©Mei PHOTO DESIGN

障がいをもった子どもたちのダンスや音楽の舞台発表である「みんなで舞台上に立とう!! (略：みなぶた)」事業は、2005年からスタートし2015年の4月で10回の節目の年を迎えます。「障がいをもった子どもたちの表現の場をつくる」という思いのもと集まった保護者や先生が実行委員会を結成し(最初は少人数のグループ)行われている事業です。参加者も40名を超える規模にまで少しずつ成長していきました。最初は手探り状態で始まった「みなぶた」も回を重ねるにつれ、ダンスや音楽以外の和太鼓や創作劇といった新たな分野にもチャレンジしてきています。講師の方々の導きにより子どもたち一人ひとりが輝く舞台になっています。

順調に歩んできている「みなぶた」ですが、10回目を迎えるにあたり、そろそろ新しいステージにあがっていいのではないかなと思うようになってきました。講師が考えたプログラムを子どもたちに伝え練習をするという域から、子

もたちの潜在能力を引き出すことを意識的に行うことにシフトチェンジする段階に来ていると感じたからです。そこで「引き出すこと」つまりは「ファシリテーションスキル」ですが、この「ファシリテーション」とはどのようなことなのか「ファシリテーションがなぜ必要なのか」を体験するワークショップを実行委員会メンバーに受けてもらいたいと実行委員長の酒井さんに提案しワークショップの実施に至りました。講師のマイケル・スペンサー氏は、世界的に音楽ワークショップを企画・実践しているファシリテーターの第一人者です。私自身が2年半前の研修でマイケルさんのワークショップを体験したことが出会いました。マイケルさんがロイヤルオペラハウスの教育部長をされていた時に、アスペルガー症や聾の子どものためのワークショップを行い、イギリスで評判になったということを知っていました。障がいを持った子どもたちとのワークショップをされてきたマイケルさんの豊富な知識や経験が今後の「みなぶた」の新しいステージへのヒントになると思いました。

この「みなぶた」は実行委員会メンバーの情熱から10年続いている事業です。実行委員会や参加する父兄が子どもたちのために結束し頑張っています。他地域ではこのような取り組みの例はほとんどなく、誇れる事業だと思っています。し



©Mei PHOTO DESIGN

かし、何を指していかかという目的が全員で共有できていないと、情熱だけでは継続していくことはとても難しいことです。今回のワークショップでは、ファシリテーションの考え方を学ぶこと以外にも、今後の「みなぶた」をどう展開していくかを皆で話し合いができたことが大きな成果でした。普段、あらたまってじっくり話すという機会が持てなかった実行委員会メンバーが、お互いの意見を交換しながら将来を語る姿に今後の「みなぶた」の展開が楽しみになりました。マイクさんはよくこうおっしゃいます。「その先に何があるのか」。今やっていることの先に何をみんなが見ているのかということ。みんなで話し合いながらつくった「10年後のみなぶた」に向けての道のりがみえたワークショップでした。(事務局・荒川裕子)

公演情報

みんなでぶたいたとう! シーズン10

一輝きを集めて未来へー
2015年 4月12日(日) 14:00

会場

福井市文化会館(ホール舞台上)
詳しくは、チラシやウェブサイトをご覧ください。

公演情報

地域とアーティストとの共同制作舞台

vol.2

Miageru —ミアゲル、女、モラトリアム—

2015年 5月30日(土) 19:00

5月31日(日) 13:00/17:00

詳しくは
・公演内容については1ページをご覧ください。
・チケット料金等は、チラシやウェブサイトをご覧ください。

会場

福井市文化会館

総合演出

多田淳之介(東京デスロック)

リージョナルディレクター

中笠浩之(bound/福井芸術・文化フォーラム)

出演

公募による市民

まちげき2014

2014年9月20日(土)~23日(火・祝)

文化会館などの文化施設だけでなく、街なかの身近な場所で舞台やパフォーマンスに親しんでもらおうと開催している「まちげき」。今回で4回目を迎えました。これまでは福井市中心市街地エリアにてフォーラム単独で実施していましたが、今回初めて福井市内外の、いわゆる市街地ではなく居住区域に会場を多く設定し、各地域の団体、店舗、企業、お寺などとの共催で実施しました。

福井でも「中心市街地の活性化を」と何年も言われ続けています。何十年前の活気のある時代を思い、そう叫び続けているのだと思われま。しかし現実はどうでしょうか。福井の街は様変わりし、若者は駅前や中心市街地よりエルパを中心にした辺りに繰り出し、街の活気地図が変わってしまいました。「活性化を」のかけ声で、中心市街地でイベントを行いふだん中心市街地に行かない人を呼び込んだとしても、その人たちが持続して中心市街地に向かうことはありません。商圏として魅力に欠けることと恒常的に楽しめるような仕掛けがないせいで、「活性化を」と言われ続けている中心市街地の活気を取り戻すことは容易ではありません。

こんな状況の中で私たちの本来の目

的「市民に優れた舞台芸術文化を届けること」を中心市街地で行うことは、二重三重のハードルがあり、私たちだけの力量ではとても無理ではないかという考えから、中心市街地にこだわることをやめました。それよりも地域のおじいちゃんおばあちゃんや子どもたちが集まりやすい場所で様々な舞台を催し、下駄履きで楽しんでもらえる「まちげき」にシフトすることにしました。人が集まりやすい場所、つまり地域の事業所、お寺、施設などで「まちげき」を開催するのです。

「まちげきをやりませんか」という私たちの呼びかけに快く答えていただいた地域の事業所などは7箇所。チラシ作りからチケット販売まで、フォーラムがサポートしながら、全て地域主催者でやっていただきました。地域での取り



ひとりオーケストラ~松本真昭~
主催：一乗・創造の谷プロジェクト
会場：一乗ふるさと交流館
地域の子どもたちとの共演も行われました。

組みはいろいろ難しいことがありました。子どもにチラシを配っても、父母やおじいちゃんおばあちゃん世代にチラシが回らず三世代分のチラシが必要とか。内容がよくわからずチケットを勧めにくいとか。挙げれば切りが無いのですが、それぞれの開催場所で老若男女が集い、地域の方々に喜んでいただくことができ、地域主催者からも「やってよかった」という声をいただきました。

細かい反省は多々ありますが、今は点でしかないこの人のつながりがやがて線になり、ゆくゆくは、面となって街全体が活気溢れるようになれば。そうなることを目指して、隔年でこの事業を継続できたらと思います。次は「まちげき2016」でお会いしましょう。

(副理事長・前田耕一)

forum lab.はじめました

2014年度は4つのラボを実施しました

フォーラムでは年間計画にしたがって様々な事業を実施しています。通常、事業を行うには、立案から実施に至るまでかなりの時間を要します。時間をかければ、じっくりと企画を練り上げ準備することができる一方、新しい事業を始めにくい、機動性に欠ける、などのデメリットもあります。そこで、新たに「forum lab. (フォーラムラボ)」という事業の枠組みをスタートしました。ラボ(実験室)の名の通り、市民の方の声をもとに事業を試験的に立ち上げ、研究と実践を繰り返しながら、表現を育む場となっていくことを目指します。

forum lab.

01

2014年5月7日、14日、28日(いずれも水曜)
トークカフェ「アートの話がしたい」

■会場：フォーラム事務所 テーマは「アートは社会を支えるか？」
■ゲストスピーカーに朝倉由希氏、信藤博之氏(いずれも研究者)。



forum lab.

02

2014年7月28日(月)
トークカフェ「舞台のはなしがしたい」

■会場：フォーラム事務所
■東京デスロック「CEREMONY」(4ページ参照)を題材に、演劇における観客について考える。ナビゲートは相模友士郎氏(演出家)。

forum lab.

03

2014年10月21日(火)
「ちょこっとクラシック」

■会場：会場：cafe chotto(永平寺町)
■親子でおもいっきり音楽を楽しみたい! 0歳・1歳のための離乳食つきフルートコンサート

forum lab.

04

11月7日(金)、8日(土)
レクチャー&ワークショップ
「わたしたちは動いているのか/動かされているのか」

■会場：福井市文化会館大会議室
■演劇やダンスにおいて「身体」は、どのように捉え、どう扱うことが可能なのか。講師は相模友士郎氏(演出家)、佐藤健太郎氏(ダンサー・振付家)。